

2022 年度実施概要

学校名

岐阜市立長良西小学校

採択活動名

小学校5年生 社会科「わたしたちの生活と環境」の学習
 ～岐阜県の小学生が考える三重県答志島奈佐の浜の海洋ごみ問題の解決策づくり～

実施単元

単元名	学年	教科
1. わたしたちの生活と環境	5	社会
2. わたしの生活とSDGs	5	総合

取り組みの概要

① 社会科 「わたしたちの生活と環境」 全9時間

第5学年社会科の「わたしたちの生活と環境」の単元において、海のない岐阜県の小学生が考える三重県答志島の海洋ごみ問題の解決策づくりの学習を行った。伊勢湾は外洋の影響をほとんど受けず、湾の出口付近に位置する答志島には、東海3県の河川から流れ出た海洋ごみが毎年約3000トン漂着している。特に、答志島の奈佐の浜には、多くの海洋ごみが漂着しており、海苔の養殖など水産業を営む人々に大変な打撃を与えている。そこで、海がない岐阜県の小学生でも自分事として問題を捉え、問題解決に向けて自分なりの関わり方ができるように、全9時間の単元を構成し、授業を行った。単元前段では、答志島に漂着する海洋ごみ問題の現状、答志島に多くの海洋ごみが漂着する理由を捉えられるようにした。単元中段では、答志島でごみ問題の解決に向けて取り組む人々の活動や国や三重県など行政の働きから海洋ごみを減らすために努力を続ける人々の願いに迫れることができるようにした。そして、単元終末では、単元を通して問い続けてきた「海洋ごみをなくすためにはどんな解決策があるのか」という新たな問いを表出し、子供たちが自分なりの解決策をもつことができるようにした。実際の授業では、「奈佐の浜で海岸清掃を行い、ごみアート選手権を開く」や「ごみ出しの時には、風で飛ばされないようにする」、「自分が長良川でごみ拾いをする」などの解決策が出た。子供たちは、解決策の有効性や実現可能性について、仲間と議論をし、自分の考えを深めることができた。写真は、第9時での仲間と解決策を議論し合う姿である。授業後には、実際に家族で海岸清掃を行い、ごみアートを作った児童の姿もあった。



② 総合「わたしたちの生活とSDGs」 全5時間

四日市大学環境情報学部千葉研究室の協力をいただき、三重県四日市市吉崎海岸にて海岸清掃を実施した。当日は、吉崎海岸を校区にもつ四日市市立楠小学校の児童と合同海岸清掃やマイクロプラスチック勉強会を行った。子供たちは、実際の海の状況を目の当たりにすることで、「川と海はつながっており、海がない岐阜県であっても海洋ごみ問題への意識を高くもち、生活を見直していきたい」という考えをもつことができた。社会と総合の教科横断的な学びの成果である。

